

グループ No. 10

IR分析結果の利活用について

～業務改革DXのために～

【テーマ決定の背景】

中間発表では『IRを活用した業務改革DX』としていたが…

- そもそもIRの理解が進んでいないという現実があった
- しかし、既にIR関連の部署が設置されており、IRの分析結果を所持しているが、IR分析結果の利活用方法がわからない大学が多い
- 本来、前提として、意思決定・目的達成のためにIRを利活用しなければならないが、その認識がなされていない現実がある

業務改革DXの根拠となるIRデータの利活用方法を見直す必要がある

【意義】

➡ ① IRデータの積極的利活用による業務改革DX (=見せる化)

- 多くの大学では利活用が進んでいない…

まずは利活用方法について考えた方が良いでしょう

➡ ② WantsをNeedsに変える (=見える化)

- IRの分析結果から要求が見えてくることもある

【課題】

- ➡ ① IRデータを収集しているが、
その分析結果を利活用しきれていない
 - 分析結果を正しく理解・活用できない
 - 分析結果の利用目的を明確にしないまま依頼している
 - 想定していた分析結果とは異なる場合がある

- ➡ ② IRデータの収集に対するハードルが高い
 - データのフォーマットが統一されていない
 - 学内の他部署にデータを渡すことに抵抗がある
 - 根拠となる学内規程が整備されていない

【IR利活用に向けた解決策】

■ 課題1. IRデータを収集しているが、その分析結果を利活用しきれていない

①分析結果を正しく理解・活用する

- リテラシー教育を行う、IR担当が分析結果を説明する
- 依頼段階から分析結果の利活用方法を想定しておく
- 分析結果を意思決定に活用するという意識改革

②分析結果の利用目的を明確にして依頼する

- IR担当が利用目的を事前にヒアリングする

③想定していた分析結果とは異なる場合があることを理解する

- 見えていなかった需要を掘り起こす（WantsをNeedsに変えるチャンス）
- 結果を踏まえ、IR担当者と分析内容を相談する

【IR利活用に向けた解決策】

■ 課題2. IRデータの収集に対するハードルが高い

①データのフォーマットを統一する

- IRデータに限定して一元管理やフォーマットを統一する
- システム導入時やリプレイス時にはIR分析を考慮する
- 学内システムを統合する

②他部署へデータを渡すことに抵抗感をなくす

- IR部門に限定してデータ出力・利用権限を付与する
- 個人情報保護法第23条の適用範囲外であることを学内で共通認識する
- 『学生情報は大学全体の共有資産である』という雰囲気醸成する

③根拠となる学内規程を整備する

- 学内データを利活用できるように規程を整備する（強制力を持たせる）

【まとめ・今後の展望】

利活用するために…

- IRの存在意義を学内に広く周知する
- 小さなことからコツコツと、課題解決に向けた小さなアプローチを行う

利活用すると…

- 利活用が新たな利活用を生み出す（まずはIR分析結果を使ってみる）
- 根拠資料を数値として示すことができ、稟議が通りやすくなる
- 時間短縮により業務改善が進む
- 学生の満足度向上につながる

近い将来には…

- ▶ IR担当部署・専任人材の確保、育成（属人化の阻止）
- ▶ 統合DBの構築を検討（学内データの一元管理）
 - ✓ 人事情報ではなく、教学IRデータに限る



ご清聴ありがとうございました。